

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 397 号	氏名	Posadas Herrera Guillermo
学位審査委員	主 査 中込 治 副 査 平山 謙二 副 査 西田 教行		
論文審査の結果の要旨			
1 研究目的の評価			
1999 年以降米国に侵入したウェストナイルウイルスは致命率が約 3%と高く、また高い中枢神経感染の合併が報告され、早急なワクチン開発が望まれている感染症である。したがって、ウェストナイルウイルス不活化ワクチンの開発と評価という研究目的は十分に妥当である。			
2 研究手法に関する評価			
Good Manufacturing Practice 環境下に大量培養、精製、不活化したウェストナイルウイルス NY99 株を用いて作製したワクチンの液性免疫誘導能について、マウスを用い、酵素免疫測定法、ウイルス中和試験法によって検証し、ウイルス攻撃試験により感染防御に対する有効性を検討したものであり、研究手法として妥当である。			
3 解析・考察の評価			
上記手法で解析した結果、本ワクチンで免疫したマウスは、強毒ウェストナイルウイルスの攻撃に対して有効な免疫が成立していた。また限界希釈試験では、3.2ng/dose でもウイルス中和抗体の産生が認められ、かつ 100LD ₅₀ の強毒ウイルスの攻撃に対しても 100%の防御効果がみとめられた。本ワクチンの動物での安全性試験も終了していることから、今後の臨床試験に向けて大いなる進展が期待される。			
以上のように本論文は医学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			